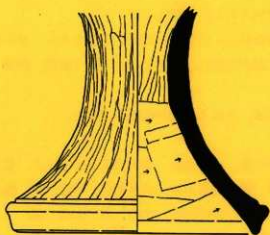


原遺跡の調査 (第5・6次調査)

—原地区土地改良総合整備事業に伴う確認調査—



原遺跡第8坪出土遺物

1994年3月

太子町教育委員会

例 言

1. 本書は、太子町教育委員会が太子町原土地改良総合整備事業に先立つ調査として、社会教育課が担当実施した太子町原所在原遺跡の発掘調査の概要報告書である。

2. 事業体制

事務局	教育長	檀 特 教 昭
	教育次長	井 上 貢
	社会教育課長	太 田 義 雄
	社会教育課副課長	森 田 真 一
	文化財担当	三 村 修 次
		海 野 浩 幸

3. 遺物実測図は実寸の1/4 に縮小した。
4. 遺物実測図の断面は、須恵器・磁器を白抜きとし、他を塗潰している。
5. 本書記載の土器の色調は、小山正忠ほか編『新版 標準 土色帖』を参照した。
6. 本書の作成には、三村と海野が編集しました。
7. 作業従事者

調査 小野八郎、小野博由、栗岡雪夫、小松正夫、須方照夫、
塚原 進、塚原泰治、中島捨信、西脇 勇、藤井 実、
水野淳司、宮田昭男、大和 正、山本 栄

整理 伊藤慶子、井上幸余、岩村千穂、中村豊子、小山真紀、
藤井昭子

原遺跡の調査

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町原字沼、小池尻、五反田、山崎

2. 調査主体

太子町教育委員会

3. 調査担当者

社会教育課三村修次、海野浩幸

4. 調査期間

平成 5年11月 8日～平成 5年11月30日

平成 6年 3月 1日～平成 6年 3月30日

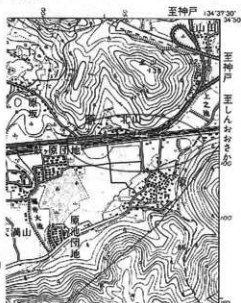
5. 調査面積

416㎡

6. 記録作成

遺構平面実測図 (1/20)、土層実測図 (1/20)

写真 (モノクロ35mm、カラー35mm、カラーリバーサル35mm)



第1図 遺跡の位置図(姫路)

7. 調査に至る経過

平成 5年度から原地区土地改良総合整備事業が実施されることになり、これに先立ち、平成 4年 3月尾野幸雄氏による遺跡詳細分布調査が行われ、弥生式土器片、須恵器片等の散布が認められた。これに基づき、今年度15.3haを対象となる水田に2×2mの坪を104箇所設定し、遺構・遺物の確認と土層観察および図面作成、写真撮影を行った。

当該地は、町の東南部の土山、白毛山、北山に囲まれた幅約2,300m、長さ約1500mの谷がある。この谷の西端部に福井大池が築かれており、この池から上の池までが発掘調査の対象地区である。

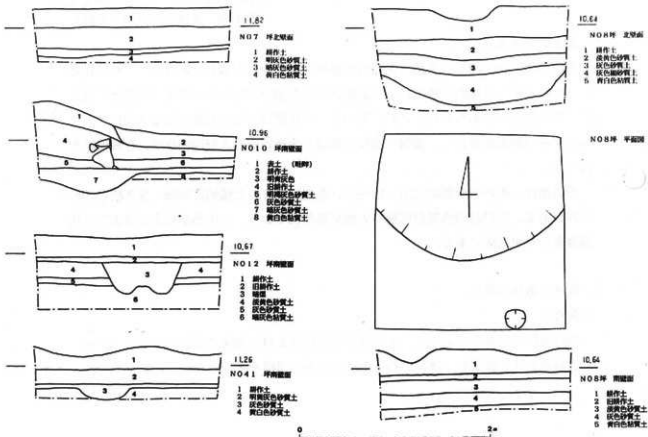
8. 遺構・遺物の概要

沼調査区

調査地区の東端部にあたり、上の池と小池に挟まれた地区で低湿地の湿田である。合計44本の坪を設定し、坪8から弥生時代中期の遺構を検出した。

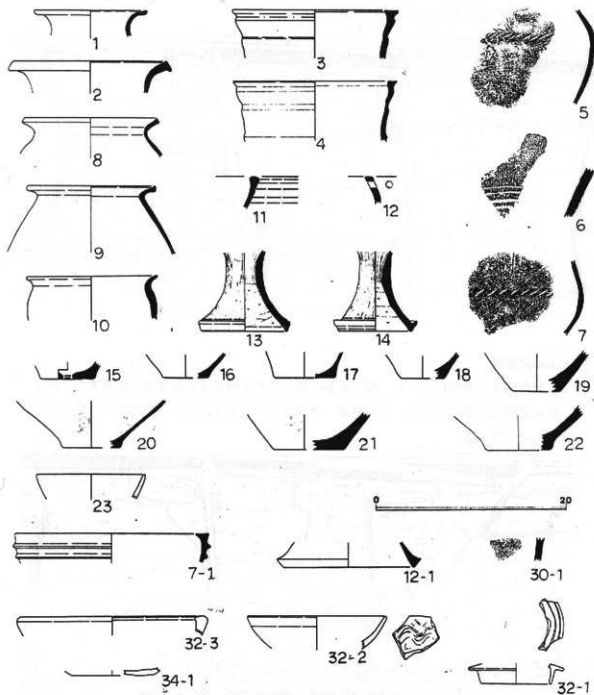


第2图 沼調査区坪設定图



第3图 沼調査区 土層断面图、平面图

遺構は、約70cm掘り下げ、第5層青白色シルト層を切り込んで円形プランの土壇と柱穴を検出した。土壇内は灰色細砂質土が単一に体積し、弥生時代中期の土器片が出土した。



第4図 第8坪出土遺物、各坪出土遺物実測図

小池尻・八反田調査区

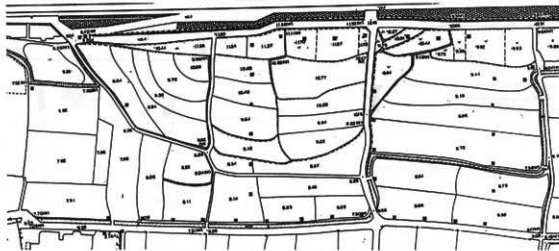
調査地区の中央部にあたり、山陽新幹線の南に位置する。坪は計20箇所設定して行ったが、北側を流れる谷川のたび重なる氾濫によって流木などを混入する砂層で遺構・遺物包含層を確認することができなかった。



第5図 小池尻・八反田調査区坪設定図

山崎調査区

調査地区の西部にあたり、郷ノ谷から流れ出した土砂による扇状地に位置する。坪は計40箇所の試掘を行った。その結果、遺構は全く検出されず、土器の破片が数片出土したのみである。



第6図 山崎調査区坪設定図

出土遺物観察表

番号	器種	法量	調整・焼成	色調	胎土
1	壺 (9310-1-4)	□ 径 12.2	内外面 摩耗著しく調整不明 焼成 良好	灰白色 2.5Y8/1	細砂粒 (0.5 mm程度) をわずかに含む
2	壺 (9310-1-3)	□ 径 16.3	内面 ナデ ヨコナデ (摩耗著しい) ヨコナデ 外面 焼成 やや不良	淡黄色 2.5Y8/3	細砂粒 (0.5 mm程度) をわずかに含む
3	壺 (9310-1-17)	□ 径 17.5	内面 ヨコナデ ヨコナデ 焼成 良好	にぶい黄褐色 10YR7/3	密 (精良)
4	壺 (9310-1-17)	□ 径 17.3	外面 □線下2条のゆるい 凹線文 (全体的に摩耗著しく調整不明) 焼成 良好	灰白色 2.5Y8/1	小石粒 (2mm程度) を 少量含む
5	壺 (9310-1-22)	(断面)	内面 ヘラケズリ ナデ 外面 ナデ 羽状文 焼成 良好	内) 灰黄褐色 10YR 6/2 外) 灰黄褐色 10YR5/2	細砂粒 (微~1mm程度) を含む (比較的精良土)
6	壺 (9310-1-13)	(断面)	内面 ナデ 外面 刷毛目 凹線文4条 焼成 良好	内) 灰黄褐色 10YR5/2 外) 褐色 7.5Y4/6	細砂粒 (微~3mm程度) 小石粒 (1~2mm大) を少量含む
7	壺 (9310-1-23)	(断面)	内面 刷毛目 羽状文 外面 刷毛目 焼成 良好	内) 灰褐色 10YR5/1 外) にぶい黄褐色 10YR7/3	微砂粒 (0.1mm以下程 度) を含む (比較的精良土)
8	壺 (9310-1-5)	□ 径 14.0	口縁部 (内面) ヨコナデ (全体的に摩耗著しく調整不明) 焼成 良好	内) 黄灰色 2.5Y4/1 外) 黄灰色 2.5Y6/1	砂粒 (0.2 ~ 0.3 mm 程度) を含む
9	壺 (9310-1-1)	□ 径 13.8	口縁部 外面 ヨコナデ 内面 摩耗著しく調整不明 焼成 良好	灰褐色 10YR6/2	白色砂粒 (0.5 mm程度) をわずかに含む
10	壺 (9310-1-18)	□ 径 14.0	内面 ナデ 外面 摩耗著しく調整不明 焼成 良好	内) 淡黄褐色 10YR6/3 外) 淡褐色 5YR6/4	微砂粒及び、小石粒 (1mm程度) を含む
11	鉢 (9310-1-2)	(断面)	外面 3条の凹線文残る (全体的に摩耗著しく調整不明) 焼成 良好	にぶい黄褐色 10YR7/2	細砂粒 (0.1 ~ 0.2mm) 小石粒 (1~2mm程度) 多くを含む
12	鉢 (9310-1-6)	(断面)	外面 3条の凹線らしき痕 (全体的に摩耗著しく調整不明) 透孔1つ穿つ 焼成 やや不良	内) にぶい黄褐色 10YR7/2 外) 灰色 N4/0	白色微砂粒 (0.1mm 以 下) をわずかに含む
13	高杯 (9310-1-25)	底径 9.2	内面 ヘラミガキ ヨコナデ 外面 ヘラケズリ (横向き) 紋目 焼成 良好	灰黄褐色 10YR6.5/2	蜜母を含む (精良)
14	高杯 (9310-1-24)	底径 7.5	内面 ヘラ磨き ヨコナデ 外面 ヘラケズリ 焼成 良好	にぶい黄褐色 10YR6/2	小石粒 (2~3mm程度) 及び、微砂粒 (蜜母) を含む
15	壺 (9310-1-10)	底径 6.0	外面 縦方向のヘラミガキ 内面 ヘラケズリ 焼成 良好	褐灰色 10YR6/1	細砂粒 (0.2 ~ 0.5mm) を多く含む

番号	器種	法 量	調 整 ・ 焼 成	色 調	説 上
16	底部 (9310-1-21)	底径 4.8	内面 摩耗著しく調整不明 タナナデ 外面 焼成 良好	内) 暗赤灰色 10R4/1 外) 赤灰色 10R5/1	細砂粒 (0.5mm 程度) 及び、雲母を含む
17	底部 (9310-1-7)	底径 5.6	内面 ヘラケズリ 外面 縦方向のヘラミガキ 底部 ヘラミガキ 焼成 良好	内) にぶい黄褐色 10YR5/3 外) 褐灰色 10YR4/1 黒褐色 10YR3/1	密 (精良)
18	底部 (9310-1-11)	底径 4.5	内面 ヘラケズリ後ナデ 外面 ナデ (一部欠損) 焼成 良好	内) 灰褐色 7.5YR5/2 外) にぶい褐色 7.5YR5/3	小石粒 (0.5 ~ 1mm 程度) を少量を含む
19	底部 (9310-1-9)	底径 5.0	内面 摩耗著しく調整不明 外面 ナデ 焼成 良好	にぶい褐色 7.5YR5/3	小石粒 (2 ~ 4mm 程度) 及び、白色微砂粒 (0.1 mm以下) を多く含む
20	底部 (9310-1-19)	底径 6.4	内面 刷毛目 10本/1cm 外面 ヨコナデ 刷毛目 5本/1cm (黒斑) 焼成 良好	浅黄褐色 10YR5/3	雲母を含む (精良)
21	底部 (9310-1-20)	底径 8.5	内面 刷毛目 外面 刷毛目 底部 ナデ 焼成 やや軟質	灰白色 2.5YR/1	小石粒 (1mm 程度) 及び、微砂粒をわずかに 含む
22	底部 (9310-1-8)	底径 6.8	内面 ヘラケズリ 外面 縦方向のヘラミガキ 焼成 良好	内) にぶい黄褐色 10YR7/2 外) にぶい黄褐色 10YR5/3	小石粒 (1mm 程度) を含む
23	碗 (9310-1-14)	口径 11.5	内外面 ヨコナデ 焼成 良好	灰色 84/0	密
7-1	高 環 (9310-1-26)	口径 20.6	外面 貼付け三角形凸帯 2条 (摩耗著しい) 焼成 良好	淡黄色 2.5YR/3	白色細砂粒 (0.5mm 程度) を含む
12-1	高 環 (9310-1-15)	口径 13.8	内外面 摩耗著しく調整不明 焼成 良好	黄灰色 2.5Y6/1	精良 (雲母を含む)
30-1	土 鍋 (9310-1-16)	(断面)	内面 刷毛目 外面 二次的耐火を受けて スス付者 (調整不明) 焼成 良好	にぶい黄褐色 10YR7/4	微砂粒を含む
32-1	急須の蓋 (9310-1-27)	底径 7.4 蓋径 10.0	外面 ヨコナデ (蓋の上部に軸がかかる) 内面 ヨコナデ (無軸) 焼成 堅緻	軸) オリーブ灰 10Y6/1 無軸) 灰黄色 2.5Y7/2	精良
-2	碗 (9310-1-28)	口径 14.6	内外面 軸がかかる (貫入) 内面 刷毛目 (波状文) 焼成 良好	黄褐色 2.5Y5/3	精良
-3	鉢 (9310-1-29)	口径 17.5	内外面 ヨコナデ 焼成 良好	にぶい黄褐色 10YR7.5/2	白色微砂粒及び 小石粒 (2mm 程度) を 含む
34-1	底部 (9310-1-30)	底径 8.5	内外面 ヨコナデ 外面 ヘラ切り 焼成 良好	灰白色 87.5/0	密

本調査区の丘陵縁辺部には、弥生時代中期の山田遺跡、小丸山遺跡、古墳時代後期の山田古墳群、白毛古墳群、原塚村古墳群、郷ノ谷古墳群等が密集しており、弥生・古墳時代の集落が存在することが予想されたが、調査の結果からは、弥生時代中期後半の遺構が検出したが、土層の観察から現水田面以下は自然体積層と考えられる砂利層、砂礫層で後背湿地にあたり、中世以後に池の開発により水田経営が行われたものと考えられる。



原遺跡 第1次確認調査地 (北から)



調査風景 (東から)



原遺跡NO.8坪 (北から)



第2次確認調査地（東から）



調査風景（西から）



山崎地区NO.1坪（北から）

